

令和二年度 前期日程
入学者選抜学力検査問題
国 語

〔注意〕

- 1 机上に受験票を提示しておくこと。
- 2 監督者の指示があるまで、この冊子を開いてはいけない。
- 3 解答は必ず別紙の解答用紙の指定された箇所記入すること。
- 4 解答用紙に受験番号・氏名を必ず記入すること。
- 5 この冊子の問題は10ページからなっている。
- 6 この冊子のうちに落丁・乱丁または印刷不鮮明な箇所があれば、手をあげて申し出ること。
- 7 この問題の満点は百点である。文学部日本・中国文学科は三百点に、文学部欧米言語文化学科・歴史学科・和食文化学科および公共政策学部は二百点に換算する。
- 8 字数制限のある解答では、句読点や括弧なども字数に含める。

一

次の文章を読んで、後の問いに答えよ。なお、原文の一部を改めたところがある。(40点)

(著作権の関係で不掲載)

(著作権の関係で不掲載)

(著作権の関係で不掲載)

(著作権の関係で不掲載)

(著作権の関係で不掲載)

(石井美保「現実と異世界——「かもしれない」領域のフィールドワーク」による)

問一 傍線部①～⑤のカタカナを、楷書の漢字に改めよ。

問二 二重傍線部Ⅰ「巷で喧伝されている」、Ⅱ「所与の存在」とは、それぞれのどのような意味か、わかりやすく記せ。

問三 傍線部ア「機能主義的な説明」の具体的な内容として最も適切な部分を、本文中から八十字以内でさがし、最初と最後の五文字を抜き出せ。

問四 傍線部イ「他者理解」の不可能性のうえに立った、他者のリアリティの尊重」とはどのようなことか、百字以内でわかりやすく説明せよ。

問五 傍線部ウ「彼ら」と「私たち」の区別が少しだけゆるぐような方向」に進む道筋がみえてくるとは、具体的にはどのようなことか、百二十字以内でわかりやすく説明せよ。

二 次の文章を読んで、後の問いに答えよ。(30点)

歌を詠ぜんとするの心持ちありといへり。古人の教へは高上かうじやうにして初心の及ぶ所にあらず。たとへば、題を得て詠ぜんと思はば、まづ心を三昧さんまいに入るがごとく、かすかなる所に心を置きて、いたらぬくまなく案じ、人の言はざる所を求めて詠ぜんと思ふべし。

また、心を物にうつして感ずる所において詠ぜよ、と見えたれども、初心の時、三昧に入るといふ事だにしらずして、感にもとむるといふことわり、さだかにわきまへがたかるべし。是を以て初心の人にさとし教へんには、まづ、題の心を思ひめぐらし、たとひ炎天の時なりとも、雪の題を詠ぜば、いかなる所のさむさをか詠ぜんと寒冷の時を思ひやり、嚴寒の時、納涼の題か夏の月を詠ぜんと思はば、涼気を求むるはいづれの所かすしからんと思ひ、月はいかなる夜に涼しき影はありしと思ひめぐらすべし。その時、心ひとへに題の氣にうつる時は、さる時の景氣、心にうかぶべし。そのうかびたる一念を詞ことばにつづりて、その心をさとし安きやうに五句に言ひ述ぶる時は、一首となるべし。

はじめよりこの詞を本として詠ぜんとたくみ、よく歌よみて人にまさらんと願ひ、しかるべき歌よみ出でて、高点褒美を得んなどどこしらへたくむ時は、物のうつりきたらんとする心に物あれば、感情さらけにうつる事なし。鏡に色のさだまりなく、一つのくもりなければ、万物やすくうつるがごとし。鏡、もとより是をうつさんとたくむにあらねど、物なければうつらざることなきがごとし。

かくのごとくたくむより、たまたま一首を詠じもとめても、かしこを直し、ここを去りて、詞をさまざまにとりつくるひぬれば、元来うかびたる本心は皆々失せて、あらぬ心のほかなる物になりきて、はじめよみし詞としては、「に」の字、「の」の字の、手爾に於葉ばかり残るものなり。これを以て、古人、後悔病とさたして大きに嫌ふことなり。はじめ詠みたる歌、心になはざる事あらば、またまたあらためて、二首も三首も詠ずるを、けいことはするなり。

(『用心私記』による)

(注) ○高上……高尚。 ○三昧……そのことに集中して他のことを考えない状態。 ○高点褒美……詠んだ和歌などを添削指導してもらった時、よい歌にたいして与えられた高い評価を示す符号や言葉。 ○手爾於葉……助詞・助動詞・接尾語・用言の語尾などの総称。 ○後悔病……歌論書に見える、避けるべき歌の病の一つ。

問一 傍線部ア、工を、文脈を考えながら、現代語訳せよ。

問二 二重傍線部「さる時の景気」を、内容に即してわかりやすく説明せよ。

問三 作者が、歌を詠むための心持ちとして初心者向けにわかりやすく述べている要点を、七十字程度で説明せよ。

三

次の文章を読んで、後の問いに答えよ。なお、設問の都合で送りがなを省略したところがある。(30点)

河豚^ハ惟^レ天津^ニ至^シ多^シ。土人食^フ之^ヲ如^ニ園蔬[、]然^{レトモ}亦恒^ニ有^リ死^{スル}者[。]不^ニ必^ク家[、]家[、]皆[。]善^ク烹^テ治^セ也[。]姨^イ丈^{チヤウ}惕^テ園牛^ノ公言^{ハク}、有^リ一^ノ人[、]嗜^ミ河豚^ヲ、卒^ニ中^ニ毒^ニ死^ス。死^セ後[、]見^{ハレテ}夢^ニ於^テ妻^ノ子^ニ曰^ク、^A祀^レ我^ノ何^レ不^レ以^テ河豚^ヲ耶[。]此^レ真^ニ死^{シテ}而^レ無^キ悔^{ユル}也[。]又^ニ姚安^ノ公言^{ハク}、里^ニ有^リ人[、]粗^ホ温^{ナル}飽[、]後^ニ以^テ博^ラ破^ル家^ヲ。臨^ミ歿^{スルニ}、語^{リテ}其^ノ子^ニ曰^ク、必^ニ以^テ博^具置^ケ棺^中。如^ク無^レ鬼[、]与^ニ白^骨同^ニ為^ル土^ト耳[。]於^テ事^ニ何^レ害^セン。如^ク有^レ鬼[、]荒^ク榛^シ蔓^{マン}艸^ノ之^間、非^レ此^レ何^レ以^テ消^シ遣^ヤ耶[。]比^ト大^ニ殮^{ルニ}、兪^ニ曰^ク、死^{シテ}葬^{ムルニ}之^ヲ以^テ礼^ヲ、乱^ス命[、]不^レ可^ク從^フ也^ト。其^ノ子^曰ク、独^リ不^レ云^ハ事^{フルコト}死^レ如^レ事^生乎[。]生^{ケルトキ}不^レ能^ハ幾^ト諫^{ムル}、歿^{シテ}乃^チ違^ハ之^乎。我^レ不^レ講^ゼ学^ヲ、諸^ノ公^{勿^ク干^レ預^ル人家^ノ事^ニ。}卒^ニ從^フ其^ノ命^ニ。姚安^ノ公曰^ク、非^レ礼^也、然^{レトモ}亦^レ孝^子、無^キ已^ム之^心也[。]吾^レ惡^ク夫^ノ事^事遵^ル古^ノ礼[、]而^レ思^フ親^ノ之^心則^シ漠^シ然^者也[。]

(「閔徵草堂筆記」による)

(注) ○天津……地名。今の天津市。 ○園蔬……畑の野菜。 ○烹治……調理する。 ○姨丈……母親の姉妹の夫。 ○惕園牛公……牛惕園。人名。 ○姚安公……人名。筆者の父親。 ○温飽……衣食に不自由しないこと。 ○博……ばくち。 ○歿……没に同じ。 ○荒榛蔓艸之間……草木が生い茂り荒れ果てたところ。 ○消遣……ひまつぶし。 ○大殮……納棺の儀礼。 ○礼……作法。 ○事死如事生……『礼記』中庸に見えることば。「事_レ死_レ如_レ事_レ生_レ、事_レ亡_レ如_レ事_レ存_レ、孝_レ之_レ至_レ也。」 ○講学……学問をすること。

問一 波線部 ① ⑤ の読みを、現代かなづかいにより、送りがなも含めてすべてひらがなで記せ。

問二 傍線部 A を現代語訳せよ。

問三 傍線部 B を現代かなづかいにより、すべてひらがなで書き下し文に改めよ。

問四 傍線部 C について、「非礼」とする対象は何か。簡潔に記せ。

問五 傍線部 D を現代語訳せよ。